

山家悠紀夫『景気とはなんだろうか』岩波新書 2005 年

終章 暮らしの視点から景気を見る

疑問点・論点

終章では「景気が良くなって暮らしが良くなるとはいえない状況が生まれてきているのである。」(p189)とあるように景気と人々の暮らしの乖離について述べられ、山家氏は人々の暮らしを良くするための策として所得の増加や雇用の拡大、人々の暮らしに関連する政府指標を提案している。

この他に景気ではなく人々の暮らしを良くするためにはどのような策が考えられるだろうか。

A：社会保障の充実。収入に応じて保険料を下げる。教育費の援助。

C から：教育費援助の財源はどこに

B：将来不安の解消のため、教育や医療福祉を充実させる。

年金制度や健康保険制度の見直しを図る。

D から：「見直し」とは具体的に？

C：ベーシックインカムのような安定した収入を得るための仕組みも重要である。

D：学費、医療費の負担の軽減。さらに、転職しやすい社会へ

A から：転職しやすい社会とは？

B から：同上